

新宿区高齢者の保健と福祉に関する調査

アンケート調査へのご協力をお願い

皆さまには日頃より新宿区の高齢者福祉・介護保険事業にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。新宿区では、高齢者が住み慣れた地域の中でその人らしく安心して心豊かに暮らし続けることができるよう、令和3～5年度を計画期間とする「高齢者保健福祉計画」および「第8期介護保険事業計画」を策定し、区のめざすべき基本的な目標と施策の方向性を明らかにしています。

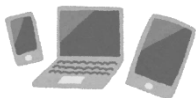
このたび、次期計画の策定にあたり、区内で介護保険サービスを実施している事業所の皆さまを対象に、サービスの現状やこれからの課題などについて伺いたく、本調査を実施することとなりました。

お忙しいところは存じますが、何とぞ本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

令和4年 10月
新宿区

はじめにお読みください

- 調査票に事業所名を書いていただく必要はありません。
- お答えいただいた内容は計画策定のための基礎資料としてのみ使用いたします。すべて統計的に処理し、貴事業所の回答やお考えが特定・公表されることは一切ありません。
- 貴事業所単独での回答・判断が難しい質問については、運営主体の法人と調整のうえお答えください。
- 質問には、令和4年9月1日現在の状況でお答えください。
- 回答は、あてはまる番号に○をつけてください。○をつける数はそれぞれの質問の指示に従ってください。「その他」に○をつけた場合など、一部に、文字や数字を記入する質問もあります。
- ご記入いただいた調査票は、**10月24日(月)までに**、同封の返信用封筒でポストに投かんしてください。切手は必要ありません。
- 調査についてご不明な点がありましたら、下記の「お問い合わせ先」までお問い合わせください。



インターネットでアンケートに答えることもできます

下記のホームページから。パソコン、スマートフォン、タブレットが使えます。

<https://#####-###.com>



最初の画面で、右の「確認番号」を入力して進んでください。

確認番号 766062

確認番号は、事業所を特定するものではありません。

お問い合わせ先

- | | |
|-------------|---|
| 【調査全般について】 | 新宿区福祉部地域包括ケア推進課 担当:〇〇・〇〇
Tel:03-5273-4193(直通) Fax:03-6205-5083 |
| 【調査の内容について】 | 新宿区福祉部介護保険課 担当:〇〇・〇〇
Tel:03-5273-4596(直通) Fax:03-3209-6010 |

貴事業所の概要についておたずねします

問1 貴事業所の組織(法人格)は、次のうちどれですか。(1つに○)

- | | |
|----------------------|------------|
| 1. 株式会社(特例有限会社を含む) | 2. 合名・合資会社 |
| 3. 社団法人 | 4. 社会福祉法人 |
| 5. 財団法人 | 6. 医療法人 |
| 7. 特定非営利活動法人(NPO 法人) | 8. その他() |

収支状況・処遇改善の状況についておたずねします

問2 貴事業所の、前年度の収支状況はどうでしたか。(1つに○)

- | | | | |
|-------|---------|-------|----------|
| 1. 黒字 | 2. 収支均衡 | 3. 赤字 | 4. わからない |
|-------|---------|-------|----------|

問3 貴事業所の、前年度と前々年度を比較した収支状況はどうでしたか。(1つに○)

- | | |
|--------------------|-----------------|
| 1. 前々年度よりは良くなった | 2. 前々年度と比較して横ばい |
| 3. 前々年度よりは悪くなった | 4. わからない |
| 5. 前々年度は事業を実施していない | |

問4 貴事業所では昨年度、処遇改善(給与や時給単価のアップなど)を行いましたか。
(1つに○)

- | |
|------------------------------|
| 1. 処遇改善を行った |
| 2. 今後処遇改善を行うつもりである |
| 3. 従前より処遇が充実しているため、改善する必要はない |
| 4. 処遇改善を図りたいが、経営状況から実施できない |
| 5. 処遇改善を行う考えはない |
| 6. その他() |

「問4で「1.処遇改善を行った」を選んだ方のみお答えください」

問4-1 貴事業所の従業員にどのような効果があったと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1. 離職率が下がった | 2. 職場の雰囲気活性化した |
| 3. 介護職員の採用がしやすくなった | 4. 介護職員の増員ができた |
| 5. その他() | 6. あまり効果はみられなかった |

(全員におたずねします)

問5 貴事業所では、収支の向上や改善に向けて、どのような取り組みを行っていますか。
(あてはまるものすべてに○)

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">1. 事業所の特徴的なサービス(自社の売り)を PR し、利用者確保を図っている2. ホームページの開設やサービス提供以外での工夫により、利用者確保を図っている3. 事業者(ケアマネジャーなど)への営業を行い、利用者確保を図っている4. 外部経営コンサルタントを導入している5. 東京都第三者評価を受審している6. 介護報酬の加算を算定できるよう人員やサービスの充実を図っている7. 給与の抑制(賞与・諸手当等含む)による人件費の削減を図っている8. 人員削減(非正規職員化含む)による人件費削減を図っている9. 人件費以外の経費(光熱水費、事務用品費等)の削減を図っている10. ICT 化を推進し、業務の効率化を図っている11. 組織編成(介護チーム編成など)を見直し、業務の効率化を図っている12. その他()13. 特に何も行ってない |
|--|

問6 貴事業所での収支の向上や改善に向けての特徴的な取り組みがあれば、ご自由にお書きください。

事業所で取り扱っているサービスについておたずねします

問7 貴事業所が区内で提供しているサービスの種類、利用申込者の受入状況、経営状況、今後4年間における事業展開の意向についておたずねします。

ア)現在取り扱っているサービスの種類 (取り扱っているサービスすべてに○)		イ)利用申込者の受入状況 (取り扱っているサービスでそれぞれ1つに○)				
(介護予防サービスを含む) ↓ 取り扱っているサービスの番号(1~25)に それぞれ○をつける		余裕がある	曜日や時間帯により 対応できないことがある	あまり余裕はない	余裕がない (利用を断っている)	現在は事業を休止 している
		1	訪問介護(ホームヘルプサービス)	1	2	3
2	訪問入浴介護	1	2	3	4	5
3	訪問看護	1	2	3	4	5
4	訪問リハビリテーション	1	2	3	4	5
5	居宅療養管理指導	1	2	3	4	5
6	通所介護(デイサービス)	1	2	3	4	5
7	通所リハビリテーション(デイケア)	1	2	3	4	5
8	短期入所生活介護(ショートステイ)	1	2	3	4	5
9	短期入所療養介護(ショートステイ)	1	2	3	4	5
10	福祉用具貸与	1		3	4	5
11	福祉用具販売	1		3	4	5
12	居宅介護支援	1		3	4	5
13	特定施設入居者生活介護					
14	介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)					
15	介護老人保健施設(老人保健施設)	1	2	3	4	5
16	夜間対応型訪問介護	1	2	3	4	5
17	認知症対応型通所介護(認知症デイサービス)	1	2	3	4	5
18	地域密着型通所介護(小規模デイサービス)	1	2	3	4	5
19	小規模多機能型居宅介護	1	2	3	4	5
20	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	1	2	3	4	5
21	看護小規模多機能型居宅介護	1	2	3	4	5
22	認知症対応型共同生活介護(グループホーム)					
23	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護					
24	訪問型サービス	1	2	3	4	5
25	通所型サービス	1	2	3	4	5

		ウ)経営状況 (1つに○)		エ)今後4年間(令和8年度まで)の 新宿区内での事業規模の意向 (1つに○)		
		安定的に運営 できている	厳しい	現状維持	拡大・新規 展開したい	縮小したい (やめたい)
1	訪問介護(ホームヘルプサービス)	1	2	1	2	3
2	訪問入浴介護	1	2	1	2	3
3	訪問看護	1	2	1	2	3
4	訪問リハビリテーション	1	2	1	2	3
5	居宅療養管理指導	1	2	1	2	3
6	通所介護(デイサービス)	1	2	1	2	3
7	通所リハビリテーション(デイケア)	1	2	1	2	3
8	短期入所生活介護(ショートステイ)	1	2	1	2	3
9	短期入所療養介護(ショートステイ)	1	2	1	2	3
10	福祉用具貸与	1	2	1	2	3
11	福祉用具販売	1	2	1	2	3
12	居宅介護支援	1	2	1	2	3
13	特定施設入居者生活介護	1	2	1	2	3
14	介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	1	2	1	2	3
15	介護老人保健施設(老人保健施設)	1	2	1	2	3
16	夜間対応型訪問介護	1	2	1	2	3
17	認知症対応型通所介護(認知症デイサービス)	1	2	1	2	3
18	地域密着型通所介護(小規模デイサービス)	1	2	1	2	3
19	小規模多機能型居宅介護	1	2	1	2	3
20	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	1	2	1	2	3
21	看護小規模多機能型居宅介護	1	2	1	2	3
22	認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	1	2	1	2	3
23	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	1	2	1	2	3
24	訪問型サービス	1	2	1	2	3
25	通所型サービス	1	2	1	2	3

今後の参入意向についておたずねします

問8 貴事業所では、小規模多機能型居宅介護への参入についてどのようにお考えですか。
(1つに○)

- | | |
|----------------|---------------------------|
| 1. 関心があり、参入したい | 2. 関心はあるが、参入するか否かは今後検討したい |
| 3. 関心がない | 4. その他() |

《問8で「2」～「4」を選んだ方のみお答えください》

問8-1 貴事業所では、小規模多機能型居宅介護への参入課題をどのようにお考えですか。
(あてはまるものすべてに○)

- | |
|--------------------------------------|
| 1. サービスに係る経費が多く、採算がとれない |
| 2. サービスを行う人材を確保することが困難である |
| 3. 指定運営基準が厳しすぎる |
| 4. 公的資金援助が少ない |
| 5. 利用者のサービスに関する周知が進んでおらず、登録定員の確保が難しい |
| 6. その他() |

(全員におたずねします)

問9 貴事業所では、看護小規模多機能型居宅介護への参入についてどのようにお考えですか。(1つに○)

- | | |
|----------------|---------------------------|
| 1. 関心があり、参入したい | 2. 関心はあるが、参入するか否かは今後検討したい |
| 3. 関心がない | 4. その他() |

《問9で「2」～「4」を選んだ方のみお答えください》

問9-1 看護小規模多機能型居宅介護への参入課題をどのようにお考えですか。
(あてはまるものすべてに○)

- | |
|--------------------------------------|
| 1. サービスに係る経費が多く、採算がとれない |
| 2. サービスを行う人材を確保することが困難である |
| 3. 指定運営基準が厳しすぎる |
| 4. 公的資金援助が少ない |
| 5. 利用者のサービスに関する周知が進んでおらず、登録定員の確保が難しい |
| 6. その他() |

(全員におたずねします)

問 10 貴事業所には、障害福祉サービス事業所を併設していますか。(1つに○)

- | |
|---|
| 1. 障害福祉サービス事業所も併設している |
| 2. 法人(事業者)内に障害福祉サービス事業所があるが、現事業所には併設していない |
| 3. 介護保険サービス事業所だけを運営中である |

「問 10 で「2」または「3」を選んだ方のみお答えください」

問 10-1 貴事業所では、新たに障害福祉サービス事業所の指定を受ける予定はありますか。(1つに○)

- | |
|---------------------------------|
| 1. 障害福祉サービスの指定を受ける予定はない |
| 2. 障害福祉サービス事業所の指定を受けるかどうか検討中である |
| 3. その他() |
| 4. わからない |

総合事業(※)についておたずねします

問 11 貴事業所では、今後も継続して総合事業に取り組むために必要なことは、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1. 職員の確保 | 2. 事業採算性の検証 |
| 3. 事務のフォロー(マニュアル作成等) | 4. 職員のスキルアップ支援(研修等) |
| 5. ケアマネジャーに対する事業の周知 | 6. 区民に対する事業の周知 |
| 7. その他() | 8. 特になし |

※総合事業
介護予防・生活支援サービス事業のことです。

人材の確保・定着・育成についておたずねします

問 12 この1年間、貴事業所の人材の確保の状況はどうか。(1つに○)

- | | |
|----------------|----------------|
| 1. 確保できている | 2. おおむね確保できている |
| 3. あまり確保できていない | 4. 確保できていない |

問 13 貴事業所では、人材の確保について、どのような取り組みを行っていますか。
(あてはまるものすべてに○)

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1. 定期的に求人誌への掲載などを行っている2. 就職説明会への参加を行っている3. 福祉専門学校等教育機関との連携を図っている4. ハローワークとの連携を図っている5. 新宿区勤労者・仕事支援センターとの連携を図っている
(新宿わく☆ワークによる求人など)6. 人材派遣会社を活用している7. 無資格者でも採用を行い、採用後に資格取得講座を受講させている8. 採用時に給与(賞与・諸手当等含む)を他社より好条件に設定している9. 採用時に労働日数・時間の希望をできるだけ聞き入れている10. 育児中の職員への配慮など、働きやすい環境をつくっている11. 採用時に仕事のやりがいや、社会的意義を伝えている12. インターンシップ制度を導入している13. 外国人を雇用しているまたは検討している14. その他()15. 特に何も行ってない |
|---|

問 14 貴事業所での人材の確保についての特徴的な取り組みがあれば、ご自由にお書きください。

問 15 貴事業所のこの1年間の離職率(※)はどのくらいですか。(1つに○)

- | | | |
|------------------|----------|----------------|
| 1. 最近1年間に離職者はいない | 2. 10%未満 | 3. 10%以上 20%未満 |
| 4. 20%以上 30%未満 | 5. 30%以上 | 6. わからない |

※離職率

この1年の退職者数÷1年前の在職者数×100 とします。

問 16 貴事業所では、人材の定着・育成について、どのような取り組みを行っていますか。
(あてはまるものすべてに○)

- | |
|--|
| 1. 近隣の企業や同業他社の給与水準を踏まえ、給与額を設定している |
| 2. 永年勤続など一定期間勤めた際の報奨制度を設けている |
| 3. 能力や仕事ぶりによって、管理職への登用機会を設けている |
| 4. 非正規職員から正規職員への登用機会を設けている |
| 5. 研修に参加しやすい体制を整えている |
| 6. 外部研修に参加できない職員のために、内部研修を充実させている |
| 7. 新人職員に対し、一定期間、マンツーマンで知識や技能を指導するなどの支援体制を設けている |
| 8. 育児中の職員への配慮など、働きやすい環境をつくっている |
| 9. 休憩室や談話室の設置など、職員がリラックスできる環境を整えている |
| 10. 上司や管理職が頻繁に面談を行い、職員の要望や不満を汲み取っている |
| 11. 仕事のやりがいや、社会的意義を伝えている |
| 12. 職員への満足度(不満)調査を行い、事業所における課題の把握を行っている |
| 13. その他() |
| 14. 特に何も行ってない |

問 17 貴事業所での人材の定着・育成についての特徴的な取り組みがあれば、ご自由にお書きください。

問 18 貴事業所で、職員のスキルアップを図るには、どのような実習・研修が必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------------------------|-----------------------|
| 1. 医療的ケアに関する知識 | 2. 介護技術に関する知識 |
| 3. リハビリテーションに関する知識 | 4. 薬に関する知識 |
| 5. 認知症や認知症高齢者の介護に関する知識 | 6. 高齢者・障害者に対する心理学的な知識 |
| 7. ケアマネジメントに関する知識 | 8. ターミナルケアに関する知識 |
| 9. ケースワークに関する知識 | 10. 介護機器や福祉機器に関する知識 |
| 11. 事故の予防対策や緊急時の対応 | 12. 口腔ケアや摂食嚥下障害に関する知識 |
| 13. 感染症に関する知識や感染対策に関する知識 | |
| 14. 医療職など、多職種との連携に関する知識 | |
| 15. 利用者や家族への接遇やコミュニケーション力に関する知識 | |
| 16. 権利擁護に関する知識(虐待、成年後見、消費者被害等) | |
| 17. 家族のひきこもり(※ ¹)に関する知識 | |
| 18. ヤングケアラー(※ ²)に関する知識 | |
| 19. 障害施策との併用に関する知識 | |
| 20. その他() | |
| 21. 特に必要はない | |

※1 ひきこもり

「仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせずに、6か月以上続けて自宅にひきこもっている状態」を言います。

※2 ヤングケアラー

法令上の定義はありませんが、一般に、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子ども(18歳未満)とされています。

問 19 貴事業所での人材の定着・育成にあたり、何か課題等があれば、ご自由にお書きください。

高齢者総合相談センターの事業所への支援についておたずねします

問 20 貴事業所は、利用者に関して高齢者総合相談センターへ相談したことがありますか。
(1つに○)

1. 相談したことがある

2. 相談したことはない

「問 20 で「1. 相談したことがある」を選んだ方のみお答えください」

問 20-1 相談した分野は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-----------------------------------|------------------------------------|
| 1. サービス計画の立て方や書き方等に関する事 | 2. 介護保険制度全般に関する事 |
| 3. 区の高齢者福祉サービスに関する事 | 4. 医療機関との連携に関する事 |
| 5. 高齢者虐待に関する事 | 6. 成年後見に関する事 |
| 7. 消費者被害に関する事 | 8. 生活困窮や生活保護等に関する事 |
| 9. 認知症に関する事 | 10. 精神疾患に関する事 |
| 11. 困難ケースに関する事 | 12. サービス提供事業所に関する事 |
| 13. ネットワークの構築に関する事 | 14. 家族のひきこもり(※ ¹)に関する事 |
| 15. ヤングケアラー(※ ²)に関する事 | 16. 障害施策との併用に関する事 |
| 17. その他() | |

※1 ひきこもり

「仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせずに、6か月以上続けて自宅にひきこもっている状態」を言います。

※2 ヤングケアラー

法令上の定義はありませんが、一般に、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子ども(18歳未満)とされています。

問 20-2 高齢者総合相談センターへ相談した際の全般的な評価は、次のうちどれですか。
(それぞれ1つに○)

	そう思う	まあそう思う	あまり そう思わない	そう思わない	わからない
ア. すぐに対応してくれた	1	2	3	4	5
イ. 問題解決への方向性を確認できた	1	2	3	4	5
ウ. 利用者の支援や対応について確認できた	1	2	3	4	5
エ. 新たな知識や情報を得ることができた	1	2	3	4	5
オ. 利用者本人や家族との調整がとれた	1	2	3	4	5
カ. 関係機関との連携がとれた	1	2	3	4	5
キ. 問題の解決に役立った	1	2	3	4	5

各種連携の状況についておたずねします

問 21 貴事業所において、ケアマネジャーとの連携における課題は何だと思えますか。
(あてはまるものすべてに○)

1. 日程が合わず、サービス担当者会議へ参加できないことが多いこと 2. 必要な情報の共有が上手く回れないこと 3. 連携のために必要となる時間や労力が大きいこと 4. お互いの都合で、対応が遅れる場合があること 5. ケアマネジャーと話し合う機会が少ないこと 6. その他() 7. 特にない
--

問 22 貴事業所からみて、新宿区内の在宅医療・介護連携の状況について、どのように思えますか。(1つに○)

1. 連携がとれている 2. おおむね連携がとれている 3. あまり連携がとれていない 4. 連携がとれていない

問 23 貴事業所からみて、新宿区内の在宅医療・介護連携を推進するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 多職種連携のための交流会を開催すること
2. 多職種連携に関する研修会を開催すること
3. 医療職が介護に関する知識や情報を得ること
4. 介護職が医療に関する知識や情報を得ること
5. 在宅医療・介護のリストを作り、情報を共有すること
6. 情報共有シートなど共通ツールを使用した、患者情報の共有を行うこと
7. 医療・介護の関係者で、情報通信技術(ICT)(※)を使用した、患者情報の共有を行うこと
8. その他()
9. 特にない

※ICT

在宅医療・介護は、多職種が様々な時間帯に支援を行うため、患者の日常の様子や状態の変化を速やかに把握し、関係者間で共有するためには、タブレット端末等、インターネット通信を活用した患者情報の共有(画像等も含める)の効果が高いとして、取り組みが広がっています。

「問 23 で「7」を選んだ方のみお答えください」

問 23-1 多職種で患者情報の共有を行うためにICTを活用することについて、どのように考えますか。(1つに○)

1. 活用したい
2. 活用したいと思わない
3. わからない

介護保険によらないサービスについておたずねします

問 24 貴事業所では、介護保険の被保険者に対して、介護保険制度によらないサービスを提供していますか。(1つに○)

1. 提供している
2. 提供していない

「問 24 で「1. 提供している」を選んだ方のみお答えください」

問 24-1 提供している介護保険制度によらないサービスは、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 家事援助等サービス
2. 食事の配達サービス
3. 生活支援にかかわるその他サービス
4. 安否確認・緊急通報サービス
5. 移動支援・付き添いサービス
6. 通いの場・サロンの提供
7. その他()

(全員におたずねします)

問 25 貴事業所で、介護保険の被保険者に対して、今後提供したい(続けたい)介護保険制度によらないサービスはありますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------|------------------|
| 1. 家事援助等サービス | 2. 食事の配達サービス |
| 3. 生活支援にかかわるその他サービス | 4. 安否確認・緊急通報サービス |
| 5. 移動支援・付き添いサービス | 6. 通いの場・サロンの提供 |
| 7. その他() | 8. 特にない |

地域貢献活動についておたずねします

問 26 貴事業所では、地域と関わる活動を実施していますか。(1つに○)

- | | |
|-----------|------------|
| 1. 実施している | 2. 実施していない |
|-----------|------------|

「問 26 で「1. 実施している」を選んだ方のみお答えください」

問 26-1 その理由は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

- | |
|-----------------------------------|
| 1. 利用者の地域参加の促進や地域生活の継続性につながる |
| 2. 事業所の地域の認識が高まり、事業所運営への協力が得やすくなる |
| 3. 職員の接客技術の改善やホスピタリティの向上が図られる |
| 4. 地域の活性化に役立つ |
| 5. 地域住民の多様なニーズを把握し、柔軟に応える |
| 6. 利用者の確保につなぎ、長期的に安定した経営ができる |
| 7. その他() |

問 26-2 どのような活動をしていますか。(あてはまるものすべてに○)

- | |
|-------------------------------------|
| 1. 利用者やその家族等が地域主催の行事(敬老会・夏祭りなど)への参加 |
| 2. 地域住民と接するイベント・行事や交流会などの開催 |
| 3. 住民が参加できる講習会やセミナーなどの開催 |
| 4. 地域ボランティアなどの受け入れ |
| 5. 地域住民とのふれあいの場としての施設・活動スペースの開放 |
| 6. 地域防災に関して、地域と連携した活動 |
| 7. 地域のパトロールや交通安全に関する活動 |
| 8. その他() |

(全員におたずねします)

問 27 貴事業所で、今後実施したい(続けたい)地域と関わる活動はありますか。
(あてはまるものすべてに○)

1. 利用者やその家族等が地域主催の行事(敬老会・夏祭りなど)への参加
2. 地域住民と接するイベント・行事や交流会などの開催
3. 住民が参加できる講習会やセミナーなどの開催
4. 地域ボランティアなどの受け入れ
5. 地域住民とのふれあいの場としての施設・活動スペースの開放
6. 地域防災に関して、地域と連携した活動
7. 地域のパトロールや交通安全に関する活動
8. その他()

問 28 地域包括ケアの担い手として行いたいと考えている活動があれば、ご自由にお書きください。

在宅医療への対応についておたずねします

問 29 区の「在宅医療相談窓口」や「がん療養相談窓口」で相談を受けられるということを知っていますか。

(1)在宅医療相談窓口について(1つに○)

- | | | |
|------------------|--------------------|---------|
| 1. 知っている(活用している) | 2. 知っている(活用はしていない) | 3. 知らない |
|------------------|--------------------|---------|

(2)がん療養相談窓口について(1つに○)

- | | | |
|------------------|--------------------|---------|
| 1. 知っている(活用している) | 2. 知っている(活用はしていない) | 3. 知らない |
|------------------|--------------------|---------|

「問 29 の(1)または(2)で「1. 知っている(活用している)」を選んだ方のみお答えください」

問 29-1 「在宅医療相談窓口」や「がん療養相談窓口」の活用状況や期待することについて、ご自由にお書きください。

ACP(人生会議)(※)についておたずねします

問 30 ACP(人生会議)について知っていますか。(1つに○)

1. 知っている(関わったことがある)
2. 知っている(関わったことはない)
3. 名称は聞いたことがある(関わったことはない)
4. 知らない

※ACP(人生会議)

生涯にわたって自分らしく生きていくために、自らが望む人生の最終段階における医療やケアについて、前もって考え、家族や友人、医療や介護の関係者などと繰り返し話し合い共有する取り組みを「ACP:アドバンス・ケア・プランニング(人生会議)」と呼びます。より馴染みやすい言葉となるよう、「人生会議」と愛称がつけました。

尊厳の保持についておたずねします

問 31 貴事業所では、利用者の尊厳の保持について、どのような取り組みを行っていますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-----------------------|--------------------|
| 1. 事業理念に明記している | 2. 職員への研修を実施している |
| 3. 現場で先輩職員から伝えている | 4. ガイドラインを設けている |
| 5. 具体的な対応マニュアルを作成している | 6. 必要に応じて個別に指導している |
| 7. その他() | 8. 特に何も行っていない |

身体拘束等の廃止の取り組みについておたずねします

問 32 貴事業所では、身体拘束の廃止に向けてどのような取り組みを行っていますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 身体的拘束等を行う場合には、その態様および時間、入所者の心身の状況、緊急やむを得ない理由を記録している
2. 身体的拘束等の適正化のための対策を検討する委員会を3か月に1回開催している
3. 身体的拘束等の適正化のための指針を整備している
4. 職員に対し、身体的拘束等の適正化のための研修を定期的実施している
5. 権利擁護の理念を全職員で共有できるように定期的に確認できる場を設定している
6. 虐待予防チェックリストを定期的に全職員に実施している
7. 実施していない

新型コロナウイルス感染症予防策として新たに導入された情報通信技術(ICT)(※)の導入状況についておたずねします

問 33 新たに導入・実施した情報通信技術(ICT)の活用(令和2年3月～令和4年9月現在)
(あてはまるものすべてに○)

1. オンラインミーティングツールによる会議
2. オンラインミーティングツールによる職員面接
3. オンラインミーティングツールによる採用面接
4. オンラインミーティングツールによる利用者のご家族の面会
5. 職員間・事業所内情報共有ツールの導入
6. モバイル・タブレット端末で利用者情報を共有
7. 出先から介護記録作成やスケジュール管理が可能なオンラインシステムの導入
8. 見守り支援ロボットの導入
9. その他()
10. 情報通信技術は導入していない

※ICT

新型コロナウイルス感染症対策として、介護現場においては見守り支援機器の活用やインターネット通信を介した情報共有が行われるなど、非接触による感染リスク低減のための取り組みが進んでいます。

BCP(業務継続計画)についておたずねします

問 34 貴事業所では、厚労省のHPにBCP(業務継続計画)作成支援のページがあることを知っていますか。(1つに○)

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

問 35 感染症に係るBCP(業務継続計画)の作成状況についておたずねします。(1つに○)

- | | |
|---------|------------|
| 1. 作成した | 2. 作成していない |
|---------|------------|

「問 35 で「1. 作成した」を選んだ方のみお答えください」

問 35-1 作成した時期は、次のうちどれですか。(1つに○)

- | | | |
|------------|------------------|--------------|
| 1. ～令和3年3月 | 2. 令和3年4月～令和4年3月 | 3. 令和4年4月～9月 |
|------------|------------------|--------------|

「問 35 で「2. 作成していない」を選んだ方のみお答えください」

問 35-2 今後作成する時期は、次のうちどれですか。(1つに○)

- | |
|---------------------------|
| 1. 令和4年10月～令和5年3月(令和4年度中) |
| 2. 令和5年4月～令和6年3月(令和5年度中) |

問 35-3 作成していない理由は次のうちどれですか。(1つに○)

- | | |
|-------------------|---------------|
| 1. 作成することを知らなかった | 2. 作成方法がわからない |
| 3. 日々の業務が多忙・時間がない | 4. 現在作成中 |
| 5. その他() | |

(全員におたずねします)

問 36 自然災害に係る BCP(業務継続計画)の作成状況についておたずねします。(1つに○)

- | | |
|---------|------------|
| 1. 作成した | 2. 作成していない |
|---------|------------|

「問 36 で「1. 作成した」を選んだ方のみお答えください」

問 36-1 作成した時期は、次のうちどれですか。(1つに○)

- | | | |
|------------|------------------|--------------|
| 1. ~令和3年3月 | 2. 令和3年4月～令和4年3月 | 3. 令和4年4月～9月 |
|------------|------------------|--------------|

「問 36 で「2. 作成していない」を選んだ方のみお答えください」

問 36-2 今後作成する時期は、次のうちどれですか。(1つに○)

- | |
|---------------------------|
| 1. 令和4年10月～令和5年3月(令和4年度中) |
| 2. 令和5年4月～令和6年3月(令和5年度中) |

問 36-3 作成していない理由は次のうちどれですか。(1つに○)

- | | |
|-------------------|---------------|
| 1. 作成することを知らなかった | 2. 作成方法がわからない |
| 3. 日々の業務が多忙・時間がない | 4. 現在作成中 |
| 5. その他() | |

(全員におたずねします)

問 37 BCP(業務継続計画)作成にあたって、必要な支援策は、次のうちどれですか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|------------------|---------------|
| 1. 作成のための研修 | 2. 作成例の提示 |
| 3. アドバイザーによる個別相談 | 4. 事業所間での情報共有 |
| 5. その他() | 6. 特にない |

新宿区への要望についておたずねします

問 38 事業者の立場から、保険者である新宿区に対して、何を望みますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 介護保険に関する情報提供	2. 質の向上のための研修
3. 不正な事業所の指導	4. 利用者への適正なサービス利用の啓発
5. 困難ケースへの支援	6. 高齢者総合相談センターの機能の充実
7. 新宿区介護サービス事業者協議会への支援	8. その他()
9. 特にない	

問 39 事業者の立場からみて、新宿区の高齢者支援の状況をどうお考えですか。

(それぞれ1つに○)

	充実している	まあ充実している	やや不足している	不足している	わからない
ア. 健康づくりと介護予防の推進による健康寿命の延伸	1	2	3	4	5
イ. いきがいのある暮らしへの支援	1	2	3	4	5
ウ. 就業等の支援	1	2	3	4	5
エ. 地域で支え合うしくみづくりの推進	1	2	3	4	5
オ. 介護者への支援	1	2	3	4	5
カ. 認知症高齢者への支援体制の充実	1	2	3	4	5
キ. 高齢者総合相談センターの機能の充実	1	2	3	4	5
ク. 介護保険サービスの提供と基盤整備	1	2	3	4	5
ケ. 自立生活への支援(介護保険外サービス)	1	2	3	4	5
コ. 在宅療養支援体制の充実	1	2	3	4	5
サ. 高齢者の権利擁護の推進(成年後見制度の利用促進を含む)	1	2	3	4	5
シ. 安全で暮らしやすいまちづくりと住まいへの支援	1	2	3	4	5

問 40 高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、ご要望・ご意見がありましたらご自由にお書きください。

問 41 今後の事業展開について、貴事業所のお考え、ご意見等がありましたらご自由にお書きください。

以上で質問は終了です。ご協力ありがとうございました。

**記入が済みましたら調査票を同封の返信用封筒に入れて、
切手は貼らずに令和4年10月24日（月）までに
ポストに投かんしてください。**